

エコユニット活動報告書 (2022.7~2023.6)

<エコユニット情報>

ユニット名	エコてく。KCT		ユニット No.	10010030
構成人数	全体 (※1)	25	所属する エコビープル	
母体となる組織 (※2)	企業 (団体) 名	株式会社ナレッジクリエーションテクノロジー		
ホームページ	URL	https://www.jpckct.com/		

▲活動報告 (1)	
【活動名称・タイトル】	
「富士山五合目」 (世界遺産) と「鳴沢氷穴」視察	
【活動の時期・期間】	
2023年5月21日 (土)	
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います	
<p>参加人数:4人 世界遺産である、「富士山」の世界文化遺産の視察会を実施しました。 富士山は2013年に世界遺産に登録された。世界遺産は「文化遺産」「自然遺産」、そしてそれらにまたがる「複合遺産」の3つに分けることができるが、富士山はこの3つの世界遺産のうち「文化遺産」に登録されている。 富士山を世界遺産に登録する活動は当初、自然遺産を目標に始まったが、以下理由で世界自然遺産の候補から落選したと言われている。 ・世界の山々に比べると、富士山の形や火山活動などはそれほど珍しくない。 ・富士山の開発が進んでいた。ゴミや尿尿(ししょう)などを原因とする環境の悪化も深刻だった。 その後、目標を文化遺産に変更、「信仰の対象と芸術の源泉」としての価値が認められ、見事富士山は2013年「世界文化遺産」として登録された。</p>	
【期待する活動の効果】	
<p>人類の歴史や、地球の雄大さを知るヒントとなるのが世界遺産です。2019年時点で1,000件以上の世界遺産があり、人種や性別、信仰や価値観を問わず、誰もが素晴らしいと感じる価値を持ったものが、世界遺産に登録されます。一方で、紛争や密猟、都市開発、自然災害により破壊の恐れがある世界遺産の数は増え続けており、SDGsではそれらの世界遺産の保全強化を目標に掲げています。世界遺産は、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきたかけがえのない宝物であります。KCTも地球に住む一員として、現地にて実際の世界遺産にふれ、実体験にもとづき持続可能な社会の開発に主体的にかかわっていくことを再認識させられた。</p>	
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】	
<p>今回視察した、富士山は環境の悪化を事由に自然遺産としての登録が拒絶された経緯がある。世界全体を俯瞰して観察しても地球環境の負荷の拡大や、公害や汚染などにより様々な弊害や異常気象などが発生している。持続可能な環境を構築するにあたり、色々な努力が必要となる。そのために、AIなどを活用した環境負荷低減モデルの構築やシミュレーション、仮想化などICTを活用した課題解決策を模索することが求められる。当社の社訓である豊かで調和のとれた社会の構築に向け、我々自身がICT企業であるので、自社ソリューションが社会の課題解決の一助となるように支援を行ってゆく。</p>	
【実績】	
今回の取り組みは初めての取り組みですか？ 継続した活動ですか？	
① <input checked="" type="checkbox"/> 初めて	② 継続 (年 月頃から)

【ホームページ】※参照するページがあればURLをご記入ください。
N/A

▲活動報告（2）
【活動名称・タイトル】 オフィスのエコ活動
【活動の時期・期間】 2014年1月～現在
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います クリーンオフィス、グリーンオフィスを社員一人ひとりが実践する。活動内容は、以下の通り。 ・本社及び各事業所メンバーによる、ペーパーレス化の実施。 ・紙コップを使用しない。(マイボトルの推奨) ・社内用書類の印刷簡素化(縮小印刷等) ・観葉植物設置(職場内緑化)。 ・離籍時の PCOFF 対応(節電)。 ・ISO14001 の取り組みに沿った、活動の可視化。
【期待する活動の効果】 ・紙使用量の削減(森林伐採削減) ・消費電力の削減(発電量減少) ・目の保養(健康増進)
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】 本社勤務、現場勤務と勤務地に違いがあるため、全てのエコてく。メンバーに浸透していない。今後は、各現場にエコてく。サブリーダー(現場リーダー)を設け、本社勤務メンバー同様の運用とする。また、新事業所は計画的にプリンター等を新設せず、ペーパーレス化などの対応を推進している。
【実績】 今回の取り組みは初めての取組みですか？ 継続した活動ですか？ ① 初めて ② <input checked="" type="checkbox"/> 継続(2014年 1月頃から)
【ホームページ】※参照するページがあればURLをご記入ください。
N/A

▲活動報告（3）
【活動名称・タイトル】 献血サポーター(日本赤十字社)
【活動の時期・期間】 2021年9月～現在
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います 病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの尊いいのちを救うために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアをエコてく主体で、社内で啓蒙し、有志で実行する。
【期待する活動の効果】 ・コロナ禍で、外出が少ない中、献血量が恒常的に少ない状況が全国的に起こっている。その中で、各事業所で、有志による献血ボランティアを実施する。献血については、業務時間内での活動を認めると主に、献血協力者に対しては、社内で表彰鵜とを行うようにして、参加者を増やし、身近な社会貢献について、社内で醸成を図る。

【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組み】
昨年は、福岡、沖縄事業所を中心に事業所単位で、活動に参加した。今年度は、全社や各事業所単位で旗振り役を設置して、取組について周知を図る。
【実績】
今回の取り組みは初めての取組ですか？ 継続した活動ですか？
① 初めて ② <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (2014年 1月頃から)
【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。
https://www.ken-sapo.jp/supporters/show?prefecture_id=13

▲活動【指定テーマ】
【活動名称・タイトル】
エコピープルを増やすための活動 (eco検定普及活動)
【活動の時期・期間】
エコピープル活動(加入時期)から継続的に実施
【活動内容と成果】 …参加人数等の数値的な実績も詳しくご記入願います
当社エコ活動のチーム「エコてく。」の参加メンバーは、2022年6月時点で25名になります。メンバーは、eco検定を含む環境に関連する資格試験の取得による、環境学習を積極的に行えるよう、該当資格の取得に補助や人事考課のプラス評価などの仕組みを取り入れ、「エコてく。」メンバーが主体的に向学心を持てるように取り組んでいる。(現在、4名がeco検定を合格)また、「エコてく。」未参加のメンバーも社員全員及びその家族については、課外活動に参加できるように支援、広報活動を行う。
【期待する活動の効果】
環境に関する知識の醸成と、そこから当社の掲げるエコ活動への動機づけと日常生活におけるエコへの意識の向上とエコエバンジェリストとなることを期待している。
【現状の課題とその解決に向けた今後の取り組みについて】
資格取得しやすい環境作りが、会社全体で行われる必要がある。特に、持続可能な社会を目指すために、SDGsの取り組みを社内に浸透させていく必要がある。会社主体で、SDGsの活動イベントを開催して、啓蒙活動や動機づけを行っていく必要がある。また、資格試験に合格するだけでなく、継続的な学習として、世界自然遺産の見学やエコツーリズムなどに参加することで、発展的学習を図ってゆきたい。また、本年度は、社員にSDGsのピンバッジを配り、自社の取り組み含め、社外にもアピールをするように心がけた。
【実績】
今回の取り組みは初めての取組ですか？ 継続した活動ですか？
① 初めて ② <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (2010年 4月頃から)
【ホームページ】 ※参照するページがあればURLをご記入ください。
【活動名称・タイトル】

★来年の計画や活動テーマ、抱負。
本年度は昨年同様、コロナ禍のため、社外活動が制限された年であった。そのため、毎年実施している、集団での屋外でのボランティア活動が実施することができなかった。そのため、一昨年より実施している日本赤十字社(サポータ登録)の献血を個人で活動できるように社内でもサポート体制を作り、有志による献血活動を実施、推進した。一方で4半期に一回行っている、社内でのエコに関する情報共有会は、オンラインにて実施し、社内での情報連携に努めた。なお、次年度は、上記活動を継続的に行うとともに、1.SDGs 事業者としての取り組みを拡大する、2.地域ボランティア(貢献する) 3.環境に関する教育(広める) 4.環境に関する知識の醸成(学ぶ) 5.グリーンオフィスを推進(実践する) 6.個人で実践する の6つの活動分野を深化させ、特に地域ボランティアでは、社員参加型の地域貢献活動などを通じて、社員の環境活動への動機づけや気付きなどを醸成してゆき、社

員のリベラルアーツ教育に一助となるような活動とする。また、本年度は、コロナウイルスの感染が収束し、5類相当人になったことを受け、十分環境や情勢に配慮して、十分な安全を確保して、課外活動(他のボランティア参加者との共同作業)を積極的に行い、持続可能な開発目標の達成を図って行く。